

「五流の仕事と学ぶ意義」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

一般に新入社員の3年以内の離職率は、「753、つまり中卒7割、高卒5割、大卒3割」だそうです。清川メッキ工業株式会社 専務取締役 清川卓二氏は、辞めていく人のほとんどが五流の仕事しかしていないからだということです。そして、一流から五流の仕事について次のように説明しています。



上司が新入社員に「昼から大事なお客様へのプレゼンがある。そのための資料がここに30枚あるから、これを15セットコピーしてくれ」と頼んだそうです。

- 五流の仕事とは、「また、コピーか！大学で専門知識や技術をたくさん学んだのに、こんな仕事をするために、この会社に入った訳でもないのに」と30枚の資料を15セットコピーして上司に手渡し、自分に満足しない。
- 四流の仕事とは、「また、コピーか！前回、課長がホッチキスしてたな」と思い、「ホッチキスでとめますか」と上司に確認し、30枚の資料を15セットコピーし、ホッチキスでとめ、自分自身に満足しようとする。
- 三流の仕事とは、「上司は、忙しそうだし、良いプレゼンができるように資料を机の上に並べておこう」と思い、会議室を調べ、会議室の机に資料をセッティングし、上司に満足を与えようとする。
- 二流の仕事とは、「お客様は資料を持ち帰り、ファイリングされるはず！それならパンチング穴を開けておこう。A社の会長も来られるのか。A社の会長は、70歳で目が悪いから資料を拡大しておこう」とお客様に満足を与えようとする。
- 一流の仕事とは、「資料30枚は多いな！環境のことを考えて両面コピーにしておこう」と限られた資源を無駄なく使い、社会全体のことを考えようとする。

参考資料 「中等教育資料」2013.12

清川氏は、「仕事には、一流の仕事と五流の仕事があるのではない。一流の仕事をする人と五流の仕事をする人がいるだけなのだ。大切なことは仕事をする人に仕事の意義をしっかりと伝えることである」と言っています。そして、意義づけをすることで会社を辞める人がほとんどいなくなったということです。

さて、学校でも子どもたちに意義・意味づけをさせなければならないものがたくさんあります。特に大切にしたいものは「学ぶことの意義」だと思います。「何のために学ぶのか」、この意義・意味を教師が子どもたちにしっかり伝えない限り、子どもたちは主体的・意欲的に学ぶことをしないのではないのでしょうか。一昔前の学歴社会の時代では、学ぶ意義はある程度明確だったかもしれませんが、しかし、良い大学に入って、一生懸命働いても、変化の激しい社会では、自分の生活がいつ、どうなるかわかりません。21世紀を生きる子どもたちにとって「学びの意義」は当時とかなり違っているのです。教師として「何のために学ぶのか」しっかり再考し、子どもに教える必要があるように思います。一流の学び人をつくるために。

総合教育センター夏季研修アンケートのまとめ

今年の夏、当センターが実施した58講座・研修に、2,500人を越える（保護者等を含む）方が参加されました。そして、9月、500人以上の先生方（校長、教頭を含む）を対象に、夏季研修に関するアンケートを実施しました。アンケートへのご協力ありがとうございました。

今回は、その結果の概要をお知らせします。

《管理職の先生方から》

1 特に、20歳代、30歳代の先生方への研修が必要であるとの意見が多くありました。これは、新規採用教員等の増加に伴い、教員としての資質・指導力の向上が急務であると同時に、これからの伊丹の教育を担う若手の先生方への大きな期待の表れであると考えます。



第5回授業力向上講座（8/20開催）

2 先生方に受講させたいテーマ（複数回答）としては、①**授業力向上**、①**学級経営**（ともに55.6%）、③特別支援教育（54.2%）、④キャリア教育（43.1%）、⑤学力向上、⑤保護者対応（ともに41.7%）となっており、教育の根幹である**授業力**と**学級経営力**をより身につけてほしいと望んでいることが分かりました。

《幼稚園・こども園、小・中・特別支援・高等学校の先生方から》

○ それぞれ校種ごとに、発達段階や課題等を踏まえたテーマの研修が必要だと考えています。**授業力**（幼稚園・こども園の幼児教育含む）、**学級経営**はどの校種でも上位にあがっています。
※希望する研修のテーマを複数回答

【幼稚園・こども園】

1	幼児教育	62.2%
2	特別支援教育	55.4%
3	異校種間連携	20.3%
3	保護者対応	20.3%

【小学校】

1	授業力向上	51.7%
2	特別支援教育	43.3%
3	学級経営	39.4%

【中学校】

1	生徒指導	45.2%
2	授業力向上	41.9%
3	学級経営	38.7%

【特別支援学校】

1	特別支援教育	85.7%
2	不登校問題	35.7%
3	授業力向上	28.6%
3	異校種間連携	28.6%
3	キャリア教育	28.6%
3	こころの理解	28.6%

【高等学校】

1	授業力向上	30.8%
2	学級経営	23.1%
2	学力向上	23.1%
4	生徒指導	19.2%
4	こころの理解	19.2%
4	保護者対応	19.2%



学級経営研修会（8/25開催）

《その他》

その他、新たに取り入れてほしいテーマについても、教職員の方々から65以上のテーマがあがり、積極的に研修しようとする意欲が伺えました。当センターではこれらのアンケート結果や喫緊の教育課題等を十分に踏まえて今後の研修内容を検討し、先生方の資質・指導力向上につながる研修・講座を設定していきます。

平成26年第3回伊丹市議会における質問

平成26年第3回市議会での質問から「キャリア教育の振興について」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

2分の1成人式や成人式を通過儀礼として行うだけではなく、自己理解・自己管理能力や課題対応能力、キャリアプランニング能力をつけさせるための教育を成長段階に応じて行い、子ども達が自らと向き合う機会を提供し続けるべきである。



【答弁内容抜粋】

(教育長答弁) (前略) キャリア教育は、私がこれから最も力を入れたいと考えている教育の1つです。

「学力とは、何か」とよく問われますが、「学力」とは、①1つには、基礎的・基本的な知識や技能、②2つには、思考力・判断力・表現力、③3つには、学習意欲のこの3つの力が備わっていることです。「キャリア教育」は、3つの学力の要素の中でも、「学ぶ意欲」を育てる教育です。

日本の子どもは、PISA調査やTIMSS調査などの国際的な学力調査において、正答率は上位にあるのですが、宿題をする時間が参加国中最低であったり、将来就きたい仕事のために教科の学習を頑張ろうとしたりする気持ちが最低であるという結果が出ています。このようなことから、小学校では、平成23年度から、中学校では平成24年度から実施された新しい学習指導要領においては、「言語活動の充実」や「理数教育の充実」などと並んで学習意欲を育むための「キャリア教育の充実」が重点項目の1つとなりました。

「キャリア教育」とは、分かりやすく言えば、「今の自分と、将来の自分を結ぶこと」、また、「自分と社会を結ぶこと」です。そのように考えてまいりますと、おのずから何をしなければならないのかが見えてまいります。キャリア教育は、「勤労観や職業観」を育てることに間違いはないのですが、それだけでは、不十分であります。「なぜ、今、学んでいるのか。なぜ、今、学ぶことが必要なのか」を教えること、「算数や理科で学んでいることが、将来の仕事にどう繋がっているのか」ということを教えることが必要であります。そして、そのことを、子ども達に理解させるためには、今、学んでいることが、「こんな所に生かされているのだ」ということを具体的に示し、子ども達に「学ぶことの意義」や「学ぶことが役に立つのだということ」を実感させることが大事です。(中略)

今後も、キャリア教育をさらに充実させるために、①1つには、キャリア教育等に関する研修の充実を図り、教職員の意識・指導力の向上に努めてまいります。②2つには、各校におけるキャリア教育の年間指導計画を作成し、重視すべき教育内容や指導方法の改善に努めてまいります。

「キャリア教育研修会」を開催します！

本研修会では、キャリア教育に関する基本的な考え方をふまえて、現在行っている取組をキャリア教育の視点で整理し、子どもたちの発達を支援する視点での「キャリア教育」及び校種に応じたキャリア教育のあり方について共通理解を図っていきます。

平成26年10月14日(火) 15:30~16:45 総合教育センター 2階 研修室

講演「社会的自立に向けたキャリア形成の支援」~自立して未来に挑戦する態度の育成を目指して~
関西大学社会学部 川崎 友嗣 教授

学力向上のためにICT活用の推進を

今年度の全国学力・学習状況調査「学校質問紙」において、新しく「国語/算数・数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか」という質問が追加されました。8月に公表された結果（下表）を見ますと、**ICTを活用した授業が全国で当たり前**となりつつある状況が伺えます。

伊丹市においても、今年度の伊丹の教育で「**ICTを活用した授業時間数**（1校あたり）」の目標を**1000時間**に定めて、各校での活用を推進していただいているところです。

※1か月あたり、約100時間の活用で年間1000時間となります。

質問 国語/算数・数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか

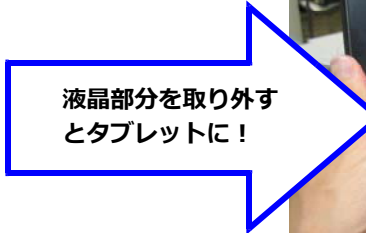
	国語	算数・数学
小学校	約79%	約46%
中学校	約75%	約53%

ICTの多様な活用による学力向上を進めるために、今年度の中学校コンピュータ室機器更新において、「**スレート型パソコン**」を各10台導入し、10月から使用開始します。「**スレート型パソコン**」とは、キーボード部分と液晶部分が分離することができ、液晶部分はコンピュータ教室の各教室等でも**タブレット端末**として使用できるパソコンです。

今後、すでに整備を進めている実物投影機・電子黒板と合わせて、新たに導入した機器を活用等し、学力向上への取り組みを進めていきましょう。



スレート型パソコン



液晶部分を取り外すとタブレットに！



緑丘小学校冒険教育施設がオープン!

市教育委員会では、**自尊感情**や**課題解決力**を育み、仲間づくりに役立てるため、各中学校区ごとに「**冒険教育施設**」の設置を進めています。

この度、市内6番目の施設として、**緑丘小学校**に冒険教育施設を設置し、9月1日に全校生参加のもと、オープニングセレモニーを行いました。

オープニングセレモニーはあいにくの雨天でしたが、ご寄付いただいた方に教育長から感謝状を贈呈した後、児童代表から、「大切に活用していきます。ありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。

その後、設置した4種類の施設の使い方について、ビデオで紹介しました。

翌週からは、さっそく施設の活用がはじまりました。子どもたちの笑い声と、友だちへの声援が運動場に響いています。

